



大学院で文学を学ぶ

ことばを探究する。

英語英米文学専攻

選抜方法のいろいろ

* 一般選抜のほかに、次のような特別選抜もあります。

- 社会人特別選抜（大学卒業後3年以上の方）
- 外国人留学生特別選抜
- 専門職業人特別選抜（専攻と密接に関係する職業に就いている方）
- シニア特別選抜（50歳以上の方）

* 博士後期課程には秋季入学もあります。

◇ 選抜の方法や出願の条件について、詳しくは募集要項などをご参照ください。

社会人のための支援制度

○昼夜開講制

○長期履修制度

（所定の年限分の学費で就学期間を延ばすことができます）

◇ 制度には様々な条件があります。詳しくは教務入試課等にお訊ね下さい。

お問い合わせは
こちら→

受験手続き全般は → 熊本県立大学教務入試課
教育内容への質問・相談は → 各専攻所属の教員へ

〒862-8502 熊本市東区月出3丁目1番100号
TEL. 096-383-2929 FAX. 096-387-2987
<http://www.pu-kumamoto.ac.jp>

英語英米文学専攻

4つの研究領域を提供しています。

■ 英語学

村尾 治彦 (認知言語学)

認知言語学やその他機能言語学の枠組みに基づいて、人間に一般に備わる認知プロセスや英語の背景にある文化的発想がどのように英語という個別言語の特性に影響するのかを考察します。

■ イギリス文学

虹林 慶 (イギリス詩、散文)

イギリス文学であれば、詩、劇、小説などのジャンルや時代を問いません。自分の解釈を他の批評などを踏まえた上できちんと示すことができるよう、指導します。

■ 英語教育

飯村 英樹 (英語教育、言語テスト)

「読む・聞く・話す・書く」の仕組みを解説しながら、英語科教育の指導と評価について検討していきます。英語教育の諸問題について、理論と実践の両面から考察できる力を養います。

吉井 誠 (第二言語習得、語彙習得)

母語以外の言語を学ぶプロセスや習得に影響を及ぼす要因について考えていきます。言語習得の研究手法の基礎を学び、それぞれのテーマに即した調査や実験ができるようにします。

レイヴィン・リチャード (コンピュータ支援言語学習)

コンピュータやタブレットをどんな風如果使用すれば、もっと効果的な授業を行えるか、インプットがアウトプットにどのように変わっていくか、のような問題を応用言語学の観点から探っています。授業では、「scholar before researcher」をモットーに、しっかりと重要な文献を理解できるように指導しています。

■ アメリカ文学



専門分野をもう一度、学び直したい
そんな要望に答えるのが大学院です。

さらに深く掘り下げたい、もっと幅広い視点から考え直したい
専修免許を取得したい、

日本語日本文学専攻

担当教員 (分野および教育理念)

米谷 隆史 (日本語学)

日本語の語彙や表記の歴史を検討する上で重要と見られる文献を正確に読解することでその資料性を明らかにし、新たな語学上の立論に繋げることを理想としています。取り扱う時代は室町期以降が中心です。

小川 晋史 (日本語学)

現代日本語 (方言含む) の共時論を中心に指導をします。内容・テキストについては受講者の希望を聞きつつ選定する方針です。言語を分析するための方法、さらには将来的に自身が論文を執筆する際に考慮すべきことについて学べるようにしたいと思っています。

馬場良二 (日本語教育)

日本語音声の実験音声学的な分析と現代日本語の形態論、意味論、統語論の言語学的な分析が主になります。教壇に立つために必要な、言語を客観的に分析、記述できる能力を養成します。

中井賢一 (日本古典文学)

日本古代文学における諸問題について、精緻且つ清新な解決策を提案する力を養います。授業では、主として平安期の物語作品を取り上げ、本文及び先行研究の再検証を行います。適宜、写本や古注釈書等も用い、くずし字や漢文の読解力についても向上を図ります。

鈴木 元 (日本古典文学)

講義では、受講者に合わせテキストを選定しますが、通常は連歌・和歌・お伽草子などを取り上げることが多いと思います。文献学をふまえた、正確で緻密な註釈、そしてそこから発展させた立論を研究の理念としています。

五島 慶一 (日本近代文学)

芥川龍之介の作品論的分析を中心に、明治終期から昭和戦前期までの文学研究を専門としますが、指導は日本近代文学全体を対象とします。講義科目では主に評論を用いた文学史的・時代背景を踏まえた注釈作業と、そこで言及される作品に対する解釈の徹底、論文指導では受講者の選定した対象に対する独自の〈読み〉の構築を重視します。

山田 俊 (日中比較文化)

思想・宗教・文学等の各領域での日中文化交流・比較などを考えていく上での基礎となる、中国の古典文献の正確な読解と理解を目指します。